



小樽商科大学

小樽商科大学 広報誌 Hermes Courrier

ヘルメス・クーリエ
2011. March

No. 28

特集：
北に一星あり
小なれど その輝光強し ……………1



▲昭和11年発行の『小樽商高緑丘新聞(第94号)』高商編集部による部説の書き出し

二十五周年記念を迎へて
渺々たり日本海、翠緑薫陶たり慈愛の丘、北に
一星あり小なれど其輝光強し、緑ヶ丘に築きたり
廿五年文化の跡
嗚呼諸君、今日ぞ迎ふ記念の式。喜ばしい哉

輝光寮が完成 ……………3

- 百周年コラム8 …………… 4
 - 小樽の皆様へ感謝一街をあげての百周年アピール
 - 「フレ国際シンポジウムーグローバルズムと地域経済ー」を開催
 - 創立100周年記念事業 …………… 5

- 商大生頑張ってます! Part 6 ……………6
 - 地元のお菓子屋さんのワインゼリーを企画
 - 商大の歴史をトランプに再現
 - 商店街雪あかりの路

INFORMATION ……………7



北に一星あり

「北に一星あり、小なれどその輝光強し」は、いまや小樽商大に欠くことのできない謳い文句である。創立以来、学生数も敷地面積も圧倒的に小規模でありながら、優秀な人材を輩出し続けてきた本学を形容するに、他に的確な表現はないだろう。しかしながら、この言葉は50年近くも埋もれたままであった。50年といえば商大100年の歴史の半分にも及び、そのまま忘れ去られていても不思議ではなかったのである。では、誰がこの言葉を掘り起こしたのであろうか。また、そもそもこれは誰の言葉であったのか。

長谷部亮一先生

この言葉を見出したのは、第五代学長の長谷部亮一先生であった。先生はある書物で、前身の小樽高商が「北に一星あり」と評されていたことを知り、「その簡潔で要を得た表現」に強い感動を覚えた。今から30年前の昭和56年（1981）の春ごろの事である。その7月の創立70周年の式典で、さっそく先生はこの言葉を挨拶に借用し、翌年の卒業式でもこれを学生に手向けた。また、先生は外に向けても大学案内などでこの言葉を広め、こうして小樽高商の「北に一星あり」は小樽商大の指針となっていったのである。そうすると、その出所が気になるところである。だが、後になって由来を尋ねられた先生は、その記憶が曖昧で、いくつか挙げた書物にそれは見当たらず、自ら母校の図書館に赴いて探してもみだが、やはり出典は見つからなかった。

宿題を残したまま気がかりな時は過ぎた。そんなある日、古い書物を整理していた先生は、偶然、年来の懸案を解く糸口を見出した。過去の創立記念行事に関するメモの25周年にあたる箇所、「北に一星あり、小なれどもその輝光強し」と書き添えられていたのである。これを手掛かりに25周年関連の資料に当たってみた先生は、ついにその書物を探しあてた。それは『小樽商科大学史——開学六十五年——』[財界評論新社1976年]という本で、該当する記事の中に探し求めていた言葉があったのである。「久しく消息不明の旧知に、ようやくめぐり会えたような感激」と、先生は回顧している。ところが、あらためて記事を読み返してみた

先生は、この文章と記事の他の部分とでは少し調子が違うことに気づいた。自分が読んだのは確かにこの書物であるが、これは他より引かれたもので、真の典拠は別にあるのではなかろうか。

先に言ってしまうと、昭和11年（1936）7月5日発行の『小樽高商緑丘新聞』第94号に、この言葉は由来していた。それは創立25周年を特集する学生新聞で、編纂部の記した「二十五周年記念を迎へて」と題する部説の書き出しに、件の文章がそっくりそのまま載っていたのである[表紙参照]。それまで長谷部先生は、先の『小樽商科大学史』が学外の出版社の編集だったことから、「北に一星あり」を小樽高商に対する外部からの批評であるとずっと思い込んでいたという。しかし、それは「学園に集うものの気概と矜持を、みずから高らかに謳う」学生自身の宣言だったのである。これは他の何処でもなく、まさしく本学において生み出されたもので、そうであるならば、久しく埋もれていたこの言葉が、長谷部先生の慧眼を経てキャンパスによみがえり、ふたたびその輝光を称えるに至ったことも、むしろ必然ではなかろうか。[以上は、先生が同窓会誌『緑丘』81号（1997年）に寄せた「北に一星あり——その出典について」による。]

緑丘精神

とするならば、先生が感じ入った「気概と矜持」とは、いかなるものであったのだろうか。その時代ならではの文調を損ねることは承知の上、当時の編纂部に許しを請いなが

小なれど その輝光強し



▲『小樽高商緑丘新聞』（前身の『緑ヶ丘』は、1925年の創刊で、日本で最初の学生新聞とされている。残念ながら、1983年に休刊のまま今日に至る。）

▲『緑丘』第81号 平成9年2月
(同窓会の緑丘会が年2回発行する会報)

ら、以下に部説の内容を要約して紹介しよう。



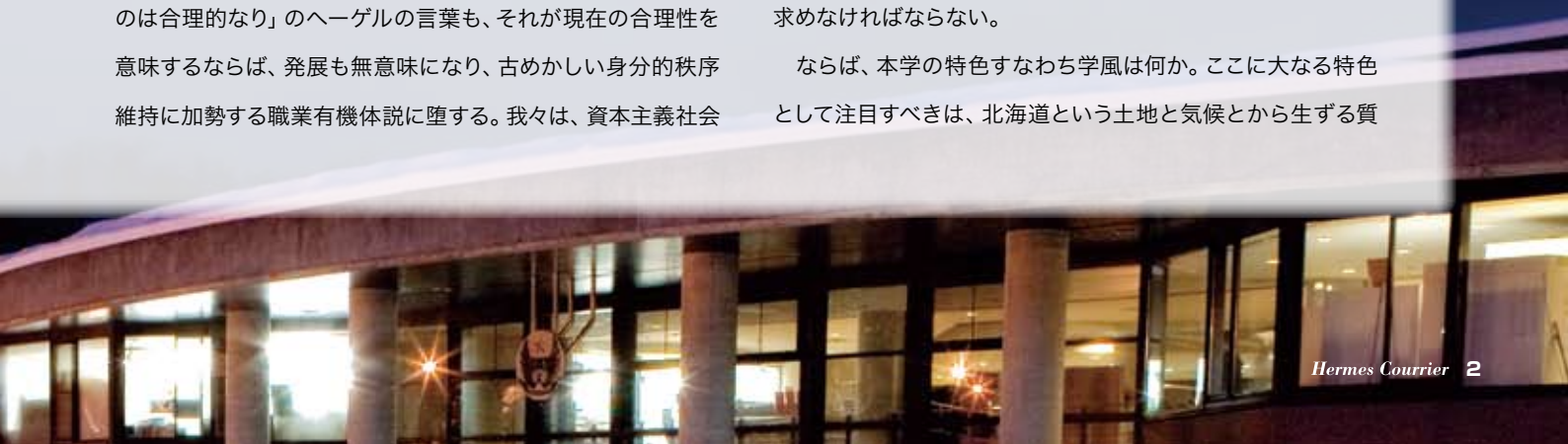
歴史とは過去を今に生かす事であり、我が学園の二十五年の現在の意義を回顧するにも、ともに歩んできた社会を眺める必要がある。本学は日本資本主義の発展とともに生まれ、戦争による好況、不況をともに知り、ファシズムに極まる思想の混乱を経験してきた。学生の大言壮語、ヒロイズム、あるいは沈滞も、この時代的背景の下に理解されねばならない。

襲い来る不安から、学生は学園にも社会にも目標を持ってない状況にある。老化、無主義、無節操、享乐的の批判もある。もちろん、学生はいずれ社会に送られていくべきであることは留意せねばならない。他方、学生の本分たる学問も象牙の塔から追い出され、理論が世俗化の嵐にさらされている。「存在するのは合理的なり」のヘーゲルの言葉も、それが現在の合理性を意味するならば、発展も無意味になり、古めかしい身分的秩序維持に加勢する職業有機体説に墮する。我々は、資本主義社会

において失業も産業予備軍として神聖な職業とされている、と
言い得るであろうか。

学生は常に社会の積極的メンバーであらねばならない。これが緑丘精神であり、青年からこの積極性、進歩性、この理想主義を剥奪する時、緑丘は灰色となり学生は老化する。無性格な現代社会のSein [そのままの在り様] におもねることなく真理を追求することこそが、学園の権利であり、青年性の表れである。我々の課題を示すに、文化の中央集権的傾向と地方分権的傾向の対立に加え、資本主義と都市との関連を認識しなければならない。都市の膨張は地方の経済力に比例し、資本の集中は、やはり学会を中央と地方とに分けてしまった。我々は地方文化の発展の一大要素として、その土地の経済的、政治的な発展傾向、地理上の地位、気候、風俗に由来するpeculiarity 特色を求めなければならない。

ならば、本学の特色すなわち学風は何か。ここに大なる特色として注目すべきは、北海道という土地と気候とから生ずる質



実なる学風である。中央に比べカレントな[流行の]研究に遅れはするが、それだけ我々は堅実なる研究を理論に献げ得るし、また献げるべきであろう。また多年標榜されて来た語学における特色も、就職の利点のみならず、学生のインターナショナルな知識の源泉として、また我々の進むべき大特色でなければならぬ。もっとも、これらの特色と背合わせの我等の弱点をそのままに放擲すべきでは断じてない。一方に特色を伸ばし、他方、他の点にも一般的水準を獲得すべきである事は言うまでもない。



いかがであろうか。75年も前の文章なので誤解・深読み

もあろうが、ここで述べられている緑丘精神とは、そのまま現在の商大の目指すところに他ならない。すなわち、応用を主として理論に兼ねおよぶ教育を旨とし、北海道という地において、その地方性に根差す特色を学風とすべきこと、これこそが創立以来、緑ヶ丘に立つ学び舎の伝統なのである。やはり「北に一星あり、小なれどその輝光強し」は、本学に戻るべくして戻ってきたのである。小樽商大が100周年を迎えようとしている今、これを宣した高商編纂部とその声に応えた長谷部先生に敬意を表すには、この言葉を、形だけでなく実を伴ったまま、次の100年に伝えていく他はない。

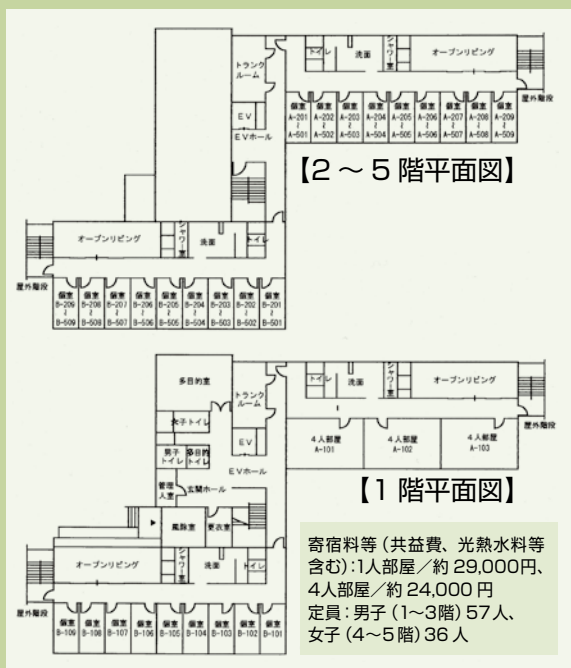


▲「輝光寮」外観

輝光寮が完成

創立百周年記念事業の最大の目玉である学生寮の建設工事が竣工し、4月入寮の募集を始めました。旧智明寮の廃寮から30年近くの時を経て甦ったモダン・スタイルの新寮は、今回の特集で取り上げた「北に一星あり、小なれどその輝光強し」から「輝光寮」と命名されました。

新寮は現在の学生の求める住環境の快適さを兼ね備えたもので、プライバシー重視の感性を尊重し、かつての相部屋ではなく個室が基本となります。しかし、これだけでは他の集合住宅と変わりありません。そこで、新寮では個室の他、9人を1ユニットとする共同リビングを設置し、集団生活を通じた人格形成、社会性の獲得、同窓意識の高揚という、「寮」ならではの理念の実現を目指します。また、この寮が魅力となって、かつてのように道外から多くの学生が小樽に集まることを期待しています。



▲ 4人部屋



▲ 1人部屋



◀ オープンリビング



小樽の皆様へ感謝 —— 街をあげての百周年アピール ——

小樽商大の前身である第五高商は、仙台や函館といった有力候補と競って小樽が誘致したものです。以来、小樽市民は商大を常に愛し、育て、励ましてくれました。この度も、本学の創立100周年を小樽の街全体で盛り上げようと、小樽市の呼びかけにより「～祝 商大100周年!小樽の街とともに～実行委員会」が発足し、商工会議所、観光協会、商店街組合、ホテル協会、中央バス、JR小樽駅など、多くの団体、企業に参加いただくことになりました。誠にありがたいことで、市の事務局によれば、百周年記念行事にお越しいただいたお客様を歓迎するために、商店街に横断幕やステッカーを設置したり、協賛店に特別記念サービスを考案していただくなど、様々な趣向を凝らすとのことです。すでに2月には、JR小樽駅の「小樽商大創立百周年記念入場券」が発行され、中央バスの小樽市内線にも車内広告が掲示されました。また、遅い桜の咲く5月頃には、市内商店街のペナントや協賛店マップが作成される予定です。



▲バス停



▲JR 小樽駅記念入場券



▲中央バス車内中吊広告



▲記念入場券ポスター

「プレ国際シンポジウム—グローバルリズムと地域経済—」を開催

創立100周年を迎える本学は、本年8月26日、27日の両日、「グローバルリズムと地域経済」をテーマとする国際シンポジウムを企画しています。それに先立って、昨年12月10日、「プレ国際シンポジウム—グローバルリズムと地域経済—」を本学札幌サテライトにて開催しました。

このシンポジウムは、グローバル社会における地域経済の在り方について議論を深めることを目的とし、本学の地域研究会が主催したものです。当日は、東京大学大学院農学生命科学研究科の本間正義教授が「FTA問題と北海道農業の国際化」をテーマに、また本学商学部の穴沢真教授が「グローバルリズムと北海道経済」をテーマに、それぞれ基調報告しました。続いて、英国、米国、ニュージーランド、韓国の協定大学から招いた研究者4名が、各国の地域経済活性化の事例などを報告しました。

報告後の質疑応答では、今後の北海道経済の再生に向けて様々な角度から議論がなされ、この夏の国際シンポジウム本番に向けて弾みをつける形となりました。



▲地域経済活性化の事例を報告する英シェフィールド大学のダビネット・ゴードン教授



2011(平成23)年は、小樽商科大学創立百周年の記念すべき年です。7月8日(金)の記念式典を始め、年間を通じて様々な記念事業を次のとおり開催いたします。

創立100周年記念事業

■伊藤整文学賞講演会・贈呈式

- 日 時:平成23年6月17日(金)
- 会 場:本学講義室
- 講演会講師/伊藤滋氏(伊藤整氏ご子息)
- 贈呈式/講演会終了後

■丘美会絵画展「私と絵画と小樽」(本学同窓の丘美会員による絵画展)

- 日 時:平成23年6月21日(火)~26日(日)
- 会 場:札幌/ギャラリー大通美術館
- 日 時:平成23年7月6日(水)~10日(日)
- 会 場:小樽/市立小樽美術館

■ITサミット2011 at 小樽商大 (IT企業のトップによる講演・パネルディスカッション)

- 日 時:平成23年6月30日(木)14時30分~17時30分
- 会 場:本学講義室
- 講演会講師
 - :樋口 泰行氏(日本マイクロソフト(株)代表取締役社長)
 - :程 近智氏(アクセンチュア(株)代表取締役社長)
 - :小出 伸一氏(日本ビューレット・パカード(株)代表取締役 社長執行役員)
 - :石積 尚幸氏(日本オラクル(株)専務執行役員)

■創立100周年記念展示会

- 日 時:平成23年7月8日(金)~8月26日(金)
- 会 場:本学史料展示室

■創立100周年記念式典・懇親会(招待制)

- 日 時:平成23年7月8日(金)15時(予定)
- 会 場:グランドパーク小樽

■緑丘100周年祭(右記を参照)

- 日 時:平成23年7月9日(土)、10日(日)
- 7月 9日(土) 卒業生・企業等の皆さまとのイベント
- 7月10日(日) 市民・企業等の皆さまとのイベント

■グリークラブ演奏会(本学同窓の男性合唱団演奏会)

- 日 時:平成23年7月18日(月・祝)<海の日>
- 会 場:小樽市民会館

■創立100周年記念夏季集中講義

- 商学特講
 - 日 時:平成23年8月5日(金)~11日(木)
 - 講 師:高橋伸夫氏(東京大学大学院経済学研究科教授、1980年本学卒業)
 - 会 場:本学講義室
- 経済学特別講義C
 - 日 時:平成23年8月6日(土)~12日(金)
 - 講 師:橋本俊昭氏(京都大学名誉教授、元日本経済学会会長、1967年本学卒業)
 - 会 場:本学講義室

■国際シンポジウム

- 日 時:平成23年8月26日(金)・27日(土)
- 会 場:本学及び札幌京王プラザホテル
- テーマ:グローバルイズムと地域経済

■音楽祭(ベートベン第九交響曲などを市民の皆さまと歌う音楽祭)

- 日 時:平成23年10月10日(月・祝)<体育の日>
- 会 場:小樽市民会館

■小樽小林多喜二国際シンポジウム

- 日 時:平成24年2月21日(火)~23日(木)
- 会 場:本学講義室

■創立100周年記念誌(大学史) 発刊

■創立100周年記念DVD発刊

■創立100周年記念誌(学生からみた百年) 発刊

各事業の詳細は、決定次第、以下のウェブサイト(URL)でご案内しております。

URL <http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/100thtop.htm>

また、問い合わせ先は次のとおりです。

創立百周年記念事業推進室 TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493

E-mail ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp

緑丘100周年祭

大学関係者だけではなく、卒業生や市民の皆様、お世話になっている企業や官公庁の皆様と一緒に百周年を祝おうと、小樽商大は来る7月9日(土)、10日(日)の両日に「緑丘100周年祭」を開催いたします。祝賀会や講演会をはじめ、様々なイベントをご用意いたしておりますので、是非ご参加ください。

また、毎年、初夏のこの季節は、昼間の「緑丘祭」と夜間の「緑宵祭」で、キャンパスがひときわ盛り上がる時期でもあります。今年は学生達も母校の百周年を祝おうと、昼夜ともに大学祭を「緑丘100周年」に合わせて開催することになりました。様々な楽しい企画を準備しているようですので、こちらの方も覗いてみてください。皆様のお越しを心よりお待ちしております。

●緑丘100周年祭 スケジュール(予定) (緑丘祭・緑宵祭同時開催)

■7月 9日(土)

- 11時:祝賀会(会場:本学体育館)
- 12時以降:流しそうめん
- 13時以降:模擬講義、ステージ企画など
- 20時以降:花火大会など

■7月10日(日)

- 10時:創立100周年記念講演会(会場:本学体育館)
講師/栗田 啓子氏(東京女子大学教授)
講演内容/小樽商科大学図書館蔵書と高商の経済学者たち
講師/浜林 正夫氏(一橋大学名誉教授)
講演内容/高商から商大へー私の思い出ー
- 12時以降:流しそうめん
- 12時以降:ステージ企画など
- 16時以降:フィナーレ



▲本学名物流しそうめん。ミニトマトがとれたらラッキー。



▲大学祭恒例の花火大会

創立百周年記念募金のお願い

創立百周年記念事業を推進するため、本学は皆様に、その趣旨へご賛同いただくとともに、ご支援ご協力を賜りますよう「小樽商科大学創立百周年記念募金」をお願いしております。その目的は、①新学生寮の建設、②教育研究振興基金(仮称)の創設、③百年史編纂、④記念式典・記念講演・国際シンポジウムの開催、⑤学生企画による記念事業、⑥キャンパス美化等の環境整備事業となります。詳しくは、創立百周年記念事業推進室にお問い合わせ下さい。また、「募金趣意書」や本学HP内の専用ページ等も是非ご覧下さい。



▲旧本校舎らせん階段

(<http://www.otaru-uc.ac.jp/hsyomu1/100th/kihu.htm>)

[創立百周年記念事業推進室]

〒047-8501 小樽市緑3丁目5番21号

TEL 0134-27-5492 FAX 0134-27-5493

E-mail ouc100nen@office.otaru-uc.ac.jp



商大生頑張ってます!

Part6

サークル活動などを通してキャンパス内外でユニークな活動を行っている商大生を紹介するシリーズです。今回は、百周年記念グッズを企画した2グループと、小樽の冬のイベント「雪あかりの路」を盛り上げようとワックスボール作りに挑戦した学生達に寄稿してもらいました。

地元のお菓子屋さんのワインゼリーを企画

経済学科4年 一家 ひとみ 商学科4年 椿 万里奈

私達は小樽の食をPRする商大サークル「Canal」に所属しています。ワインゼリーを作ることになったのは、取材で菓匠「小樽六美」へ行ったことがきっかけでした。赤白二色の



▲左から一家さん、椿さん

ワインゼリーには六美の特別な製法が生かされ、原料のワインも実際に何本か試飲して選びました。商大や小樽への想いやこだわりも詰まっています、色は赤を商大カラーのえんじ色に近づけ、名前も大学の「北に一星あり」のフレーズから「北の星」としました。販売決定までの道のりは長く困難でしたが、小樽六美さん、北海道ワインさん、大学職員や大学生協の皆さんなど、多くの方々の協力で、約1年の年月を経て、ついに販売が実現します。感謝の気持ちでいっぱいです。赤白セットで卒業記念や入学の内祝いにも、また学生の帰省の際のお土産や記念に、ぜひ一度お買い求めください。



▲ワインゼリー「北の星」

商大の歴史をトランプに再現

商学科2年 松本 健司



▲松本君

商大100周年記念トランプは、一昨年のルーキーズキャンプ(新入生を対象とした合宿研修)で「商大グッズを考えてみよう!」というテーマのもとで発案されたものです。トランプのデザインや使った写真のキャプションなど、多くの方々からアドバイスをいただくことができたおかげで商大トランプを完成させることができました。このトランプでは、商大の今と昔の写真から、100年の歴史がある商大の新旧を比較することができます。また、トランプの4種類のマークに、「歴代の学長」、「商大の建物」、「商大の行事・活動」、「小樽の街」のテーマをそれぞれ当てました。裏面には、本学の学生、卒業生にとって馴染み深い『若人逍遙の歌』を掲載しています。この商大トランプから、本学の歴史と小樽の歴史を感じていただけたらと思います。そして、このトランプによって、商大創立100周年を盛り上げたいです!



▲100周年記念トランプ

商店街雪あかりの路

社会情報学科2年 北嶋 乃笛

小樽の活性化に取り組む商大サークル「小樽笑店」、よさこいソーラン・チーム「翔楽舞」、そして「大津ゼミ」の学生が、冬の小樽にワックスボールの明かりを灯しました。

小樽の冬の一大イベント「小樽雪あかりの路」で、小樽笑店、翔楽舞、大津ゼミの学生が1500個ものワックスボールの明かりで地元の商店街を飾り、訪れた市民や観光客をもてなしました。それぞれ「オタルノヒカリ」、「冬の夜桜」、「香りの路」をテーマに、ワックスボールの他にも、グラスタワー、記念撮影用のオブジェ、メッセージカップなど趣向を凝らして、都通、花園銀座、サンモール一番街を盛り上げました。また、今年は3商店街共通で、豚汁などの温かい飲食物を振る舞う「ほっとステーション」や、クイズで景品が当たる「商店街クロスワードラリー」を行い、好評をいただきました。



▲左端が北嶋さん



▲ワックスボール

昨年末から2ヶ月近くの活動を通して、商店街の方々と協力して小樽を盛り上げつつ、市民や観光客のみならずと触れ合う機会に巡り合うことができ、とても充実した時間を過ごすことができました。来場者からは「綺麗だね」、「寒いけど頑張ってるね」、「有難う」と、優しく声をかけて頂き、ろうそくの明かりだけではなく、たくさんの人との触れ合いも小樽雪あかりの路の魅力なのだと実感しました。有難うございました。



市民交流の場:小樽駅前プラザ「ゆめぼーと」をご利用下さい。
小樽市稲穂3丁目3番1号(小樽グリーンホテル別館内) TEL 0134-32-4624
開館時間/火曜日~土曜日 13:00~19:30

INFORMATION

平成22年度 小樽商科大学就職状況 就職に強い小樽商科大学

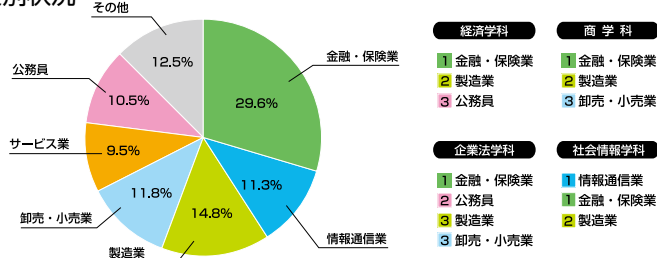
テレビや新聞が「史上最悪の就職氷河期」と騒いでいるように、また、卒業後3年間は新卒扱いとする案が取り沙汰されているように、今年就職戦線は昨年以上に厳しいものでした。本学の学生も当初はなかなか苦闘したようですが、それでも就職を希望する学生の95.7パーセントが、無事、内定を得ることができました(3月3日時点)。いかに「就職に強い小樽商大」であっても、学生個々の努力なくしては、ここまでの数字は得られなかったことでしょう。ここに頑張った学生達の今後の進路を報告いたします。

■進路状況

区分	昼間コース			夜間主コース			合計		
	男子	女子	計	男子	女子	計	男子	女子	計
内定率	95.4%	99.4%	97.1%	66.7%	94.1%	80.0%	93.2%	98.9%	95.7%

区分	男子	女子	全体
道内本社企業	57.1%	47.8%	52.9%
道外本社企業	42.9%	52.2%	47.1%

■産業別状況



商大グッズ新商品誕生!

商大グッズとして新たに赤白二色のワインゼリーが誕生しました。今号の「商大生頑張ってます!」で紹介したように、学生のアイデアから生まれたこだわりの逸品で、大学生協でご購入いただけます。本学のお土産として、また、卒業・入学のお祝いの品にいかがでしょうか。

純米吟醸酒「小樽緑丘」の2011年新酒が、ラベルのデザインも新たに、創立百周年の記念酒として発売されました。今後は古酒用に3年寝かせた「小樽緑丘」とのセット販売も企画されています。どうぞご期待下さい。



【商大グッズ好評発売中】

商大ラーメン、酒饅頭「商大饅頭」、商大くんストラップ、名刺入れ、エコバック、キーケース、シャープペンシル、ボールペン、オリジナルタオル、コインケース

平成23年度前期行事予定

4月 4日	入学式 10時、於本学体育館	8月 6日~9月30日	夏季休業
6日	授業開始	上旬	オープンキャンパス
7月 7日	創立記念日		高校生の皆さん向けに模擬講義や授業紹介、大学生生活や留学の相談などを行います。
8日	創立百周年記念式典・懇親会 15時 於グラウンドパーク小樽	15日	緑丘戦没者慰霊祭
9日~10日	創立百周年祭 大学構内		学生出陣で散った学生等347柱の御霊を慰め、反戦を誓います。
8日~10日	緑丘祭・緑宵祭	9月 30日	学位記授与式(9月卒業)
28日~8月4日	前期定期試験		

「株式会社ほくほく フィナンシャルグループ」 と包括連携協定締結



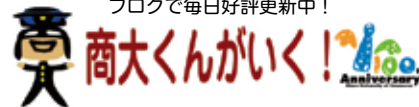
▲調印式で、左から堀八義博北海道銀行頭取、高木繁雄北陸銀行頭取、山本学長、和田副学長

小樽商科大学は、北陸銀行と北海道銀行の持ち株会社である「ほくほくフィナンシャルグループ」と包括連携協定を結び、平成22年11月30日(火)、協定書調印式を行いました。

本学はこれまで、金融機関としては北洋銀行との間で平成19年3月に同種の協定を締結しています。今回の協定締結により、産学連携の強化、地域貢献の推進、学生の職業教育などの更なる充実が期待されます。

具体的な連携事業としては、特別講義等の講師派遣、学生の企業研修の受け入れ、行員と学生の交流会開催、就職情報の提供等が考えられます。今後双方で協議し実施する予定です。

学生や先生の活動、イベント、学内の風景等をブログで毎日好評更新中!



<http://d.hatena.ne.jp/shoudai-kun/>

編集後記

左の清酒のラベルに記された「小樽緑丘」の文字は、前学長の秋山義昭先生の直筆である。その先生が去る平成23年1月10日、68歳で永眠された。振り返るに、本誌第2号に先生の学長就任インタビューがあり、写真の先生はソファに深く腰掛け、そして笑っておられる。先生の笑顔を見ることはもうできない。安らかに眠りになるようお祈りいたします。

編集スタッフ 尾形弘人、山本賢司、金 鎔基、中村 史

【ご意見・ご要望のお願い】

広報委員会では、読者の皆様のご意見・ご要望をもとに、より良い広報誌を作成する所存です。取り上げてほしい話題、質問したいことなど何でも結構です。下記にお寄せください。

E-mail kouhou@office.otaru-uc.ac.jp FAX 0134-27-5213

<http://www.otaru-uc.ac.jp>

